



令和3年8月2日

【建設・堅持原則】

時を守る ・ 場を清める ・ 礼を正す
(時間の秩序) (空間の秩序) (人間関係の秩序)

「立腰と躡の三原則」を提唱なさった森信三先生は、上記を社会人の心得として残されました。「再建の三原則」とも言われ、廃業に追い込まれた企業や、荒んだ教育現場で社員や教師が実践し、再建に成功した事例が多く報告されています。清水保育園では「職場の三原則」として職員一人一人が心施に実践し続けています。その結果、園の隅々に心地よい空気感がただよっていることを保護者の皆様も感じて頂けているのではないのでしょうか…。

さて、～花巻東高校から世界へ～は、今、時の人として世界中を明るくしている大谷翔平選手と菊池雄星選手が、自らのユニフォームに書いてメディアに公開した言葉です。二人は、花巻東高校の佐々木監督から育てられました。そこに森信三教育哲学との深いつながりがあることをご報告いたします。

株式会社原田教育研究所メールマガジン「仕事と違うな人生と思え」より
～原田隆史のカリスマの目線 vol 457～【大谷翔平を育てた教育】

【前略】

私は2015年、16年と連続で花巻東高校の練習に招かれた。

選手の登校風景から見ようと、早朝6時30分に訪問したが、すでに練習は始まっていた。

グラウンドと施設は高校とは思えないスケールで、部員と関係者を合わせると200名以上、プロ球団がキャンプをしているかのようである。ホームベース後ろにある監督室から練習を見学した。その間、選手、女子マネージャー、コーチ、関係者が代わる代わる入ってこられたが非常に礼儀正しい。グラウンドに出ると、全選手が間髪入れず挨拶をしてくる。しかも、とても爽やかである。やらされ意識のつてつけた挨拶ではない。自主、自発的な挨拶である。思春期の高校生が、見ず知らずの他人に爽やかに挨拶が出来る時点で、教育が行き渡っている証拠だ。

数時間観察をしてみると、人を自立させる三原則が徹底されていた。

それは、時を守る・場を清める・礼を正すである。

「躡、成長、再建の三原則」とも呼ぶ。解説すると【時間厳守＝時を守る】【清掃・奉仕活動ですきみを除去する＝場を清める】【あいさつ、返事、ありがとう＝礼を正す】の三つの励行である。この三原則が徹底されると、人の土台である「心」や「人格」が育成されてくる。その土台の上に、野球や学業を乗せて合わせていくと、自立した人に育つ。佐々木監督はその土台作りにも励まれたのだ。高校生が土台の上に乗せる活動は、スポーツ、芸術、学業、アルバイトなど多々あるが、土台さえできれば何を乗せても成長する。

【中略】

佐々木監督の面授と陶冶、そして躡の三原則。ITやAI時代に負けない「人の意志のある教育」、それが大谷翔平を育てた。

【後略】

原田隆史先生も森信三先生の教育哲学に感銘を受けられたお一人です。中学教師の頃に、姉妹園である仁愛保育園をご参観くださった際、職員や子ども達の姿に触発され、以降「躡の三原則」「職場の三原則」を自らの育成法に取り入れ、目覚ましい成果を上げられています。

大谷翔平選手は今も、原田メソッドでの学びと佐々木監督の教えを心施に実践し、活躍中なのです。世界中の人々から「大谷はスポーツの垣根を超えたところで、良き人格者として世界を動かしている」と絶賛されるほどであります。

彼が日本人であり、重ねて被災地岩手県の出身であるということに、深い深い喜びを感じずにはられません。彼の笑顔はまさしく立腰と躡の三原則、調和のとれた主体性ある人柄の土台づくりの賜であり、「笑顔に拓く天の花」です。

月 今月の歌 月

8月の行事

花火

1. ドンとなった花火だ
綺麗だな
空いっぱい広がった
しだれやなぎが
広がった

2. ドンとなった何百
赤い星
一度に変わって青い星
もいちど変わって
金の星

水遊び

水をたくさんくんできて
水鉄砲で遊びましょ
1. 2. 3. 4
シュッシュッシュッ



5日(木) 誕生会

8月生まれのお友達をお祝いします
避難訓練

緊急、災害時の避難の練習をします

13日・14日 お盆保育

19日(木) 交通安全教室(もも・さくら・きく)



熱中症に気をつけましょう

猛暑が続いています。子どもたちは暑さの中でも夢中になって遊ぶので、こまめな水分補給をすることが大事ですが、冷たすぎる飲み物やアイスクリーム、糖分が多い飲み物は、食欲不振や夏バテの原因につながる為、注意が必要です。バランスの良い栄養と十分な睡眠を摂り、暑い夏を乗り切りましょう。 看護師・下斗米 舞

熱中症はどうして起こる？

体には熱を逃がす働きがある

運動すると、体がポカポカして汗が出てきます。**皮膚の表面から熱を逃がしたり、汗を蒸発させて体温を下げたりして、体内の温度が上がりすぎるのを防いでいるのです。**



熱中症の危険があるとき

気温が高い
皮膚から熱が放出されにくくなります。
湿度が高い
汗が蒸発しにくくなります。
水分不足
体内の循環が悪くなって熱を放出しにくくなります。
急に暑くなった
体が暑さに慣れていないため、熱の放出がうまくいきません。



顔がほてる・体が熱くなる、吐き気・おう吐のほか、気分が悪くなることがあります。ひどくなると意識障害を起こします。

熱中症を防ぐ4つのポイント

1 気温や注意報をよく見る

気温や湿度が高いときや、暑さ指数が「警戒」「厳重警戒」「危険」のときは、屋外での活動を控えましょう。

2 水分補給は前もって

小さな子どもは「のどがかわいた」と言えません。出かける前、遊ぶ前に水分をとらせ、その後もこまめに少しずつ飲ませましょう。



3 暑さに体を慣らそう

暑いからといって外に出ないと、体が暑さに慣れずかえって熱中症のリスクが上がります。適度に外で遊んで、暑さに慣らしておきましょう。

4 無理をしない

外で活動しているとき、体調が悪くなったときはもちろん、元気でも顔が真っ赤で汗をたくさんかいているのは、体内の温度が上がっているサイン。すぐに涼しい場所で休ませ、水分をとらせませす。



熱中症を疑ったら

涼しいところへ移動し、衣服をゆるめて風通しをよくし、頭を低くした状態で寝かせます。塩分・糖分を含んだイオン飲料をこまめに少しずつ与えましょう。